

教えて!

富山 けいざい



ニューノーマルって?

◆危機後の新生活様式／日常の変化 政府後押し

Q－新型コロナウイルスの感染者がまた増えているわ。
ニューノーマルってどういう意味かな。

A－元々は2008年のリーマン・ショックの危機が終わった後も世の中は以前の通りに戻らずにこれまでとは違う「新しい常態」になるだろう、といった議論の中で使われていた言葉です。今年に入り、コロナウイルスの感染拡大で人々の日常行動が「コロナとの共存」を前提に変化する中、これまでと異なる生活常識が根付いてきています。これを「新しい生活様式＝ニューノーマル」と表現するようになってきたのです。



Q－具体的に何が変わったの。

A－公共の場のソーシャルディスタンス（社会的距離）を保つことやマスクの着用、手指の消毒などはもはや当たり前になりました。また、外食を控えてテイクアウトで済ます人も増えました。時差出勤やテレワーク（在宅勤務）、都会を離れて観光地で休暇をとりながら働くワーケーションなど、働き方も随分変わってきました。本社を東京から地方に移す企業も現れるなど、産業界でもニューノーマルに向けた対応を本格化する動きが見られます。

Q－みんな変化にうまく対応できるかしら。

A－政府も国民や事業者の新しい生活様式への対応を後押ししようと、例えば医療現場では初診からのオンライン診療を可能としたり、飲食店が店頭営業しやすくなるよう道路使用規制を緩めたりしています。

富山市でも10月から、市内の飲食店や観光施設で顔認証技術を利用した非接触型の決済システムの実証実験を開始するなど、新しい生活様式にマッチした新技術への取り組みを始めています。政府の進める行政手続きの「脱はんこ」化やデジタル改革推進（DX）も、国を挙げての大転換の動きといえるでしょう。

こういった変化に人々が適応し、新型コロナ収束後も定着するかどうか注目されます。

（北陸経済研究所の丸澤千春が解説しました。随時掲載します）